



小治政
林



新部文庫
117
449
2



117
449
2



世世の治 同丸 萬 徒倚
 仕丁 淀 高水
 余不 早 回 四 字 終 了
 喚子 檜 杉 杉 杉
 中あかき 吉物 蓬 蓬
 蓬 四丁 杉 香

與

一夜

よしよあえあうううううう
 世世の治 同丸 萬 徒倚
 仕丁 淀 高水
 余不 早 回 四 字 終 了
 喚子 檜 杉 杉 杉
 中あかき 吉物 蓬 蓬
 蓬 四丁 杉 香

高、美の君、吉の山、松丸、番酌、河、
田音、高長、君層、時、列れ、中、
君邦、山里、流神、山の夏、

高、美の君、吉の山、松丸、番酌、河、
田音、高長、君層、時、列れ、中、
君邦、山里、流神、山の夏、
高、美の君、吉の山、松丸、番酌、河、
田音、高長、君層、時、列れ、中、
君邦、山里、流神、山の夏、

一世の治

都の性集、松丸の災、山信の
名とつて不退く、少、海、揮、
田也、
諸、
臣、

一世の乱

幸北政、山、
大君の治、入、
好色、致仕、

一萬

あつてし日本死、
この一、
すゝるれい万をよ、

一とろがら

徳代池、徒、
依、
の、
と、

一

よ、
高、
と、

いひて安んじたりしをいひて安んじたりしと云ふ

●夜見、致仕、引籠り、埋火、昔思、
社友、病者、後考、入佛の道、
めり月、産、松、虫、花、月、

古事記に載るる事なれば善くはれおほひなり
と云ふ
大に日月の光りしをいひて人の世と云ふ
○唐の多き事ありしは、傷ひぬれりてせりし
凡そさきもいひたれし事の歎のひらりし

一よづい 古事記に万葉の拾遺をよみし
結語の字に文選吉野と云ふ

勝をよづいとよむの事しき名はせわたりし
扱這と云ふ●中取物と云ふ扱つてまじりし
は手やのよみしと云ふと云ふしき
是よりけりし人よみしといひし●唐の
けりし人の世のわかれし物と云ふといひたれ
と云ふ一語しきなり

●よづい 万葉の拾遺をよみし
結語の字に文選吉野と云ふ
夫木、

一よづい 万葉の拾遺をよみし
結語の字に文選吉野と云ふ

一よなる 日事記に丁字雁、字吉事
死は丁と刻せり脚力をよ

河のしほふ人定の風ありしより
脚をよみしよなると云ふ
日事記に、役丁
をよみし軍丁と云ふよなる
よなる直丁と云ふよなると云ふ●よなる
の脚の越中にありしと云ふ

一よなる 日事記に丁字雁、字吉事
死は丁と刻せり脚力をよ

一淀 和名、よとよあり、常川、各
よ水のよとよありし知をよ

淀川と云ふこれよとよと云ふと云ふ
よとよありしよとよと云ふと云ふ
和名世によとよと云ふと云ふ

○美豆地、文野、水野、中田、延作、
 茂、若、高、野、鶴、舟、野、西、
 夏、川、雉、池、入、仁、泉、川、
 石、下、の、川、荒、山、奔、川、
 氷、松、浦、川、う、せ、六、田、柳、下、
 橋、左、手、燧、麻、衣、栄、清、答、性、
 杜、若、桂、川、鯉、母、子、橋、

○石、下、の、川、の、上、の、水、子、も、は、高、屋、と、の、水、
 此、水、が、石、下、の、水、と、い、は、れ、る、水、と、い、は、れ、る、
 水、と、い、は、れ、る、水、と、い、は、れ、る、水、と、い、は、れ、る、

一よぶの水

夏、多、抄、の、神、水、と、い、は、れ、る、
 水、と、い、は、れ、る、水、と、い、は、れ、る、
 水、と、い、は、れ、る、水、と、い、は、れ、る、
 水、と、い、は、れ、る、水、と、い、は、れ、る、

○水、子、舟、舟、洋、海、松、陸、の、水、
 舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、
 舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、
 舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、

舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、
 舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、
 舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、

○水、子、舟、舟、洋、海、松、陸、の、水、
 舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、
 舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、
 舟、の、水、舟、の、水、舟、の、水、

一餘所

と、あ、り

一、原、外、の、水、と、い、は、れ、る、
 水、と、い、は、れ、る、水、と、い、は、れ、る、
 水、と、い、は、れ、る、水、と、い、は、れ、る、

上はわしとやとるんふはまはれぬのひのひに
雨のふりし人のあつたふはまはれぬのひのひに

一四一

二殺のちとあつた
年とあつた
路と守
とりの
立春ととれり
歳ととれり
厚和天皇の
ついでと
りし時と
とて若はる

ついでと
りし時と
とて若はる
ついでと
りし時と
とて若はる

多とと
欠執
ワ
と
この
ついでと
りし時と
とて若はる

一四二

よとの
の南
ついでと
りし時と
とて若はる

一四三

北史
ついでと
りし時と
とて若はる

又警志の平家とてり子用たる花立りありし
ものまじし玉の毘沙門の御堂として
四の指の目一●新後探集桂の緒の毘沙
門とてり又紐上の古事後とてり●榮旭の毘
沙門とてり青山、警馬、仙童、師とてり
くさくさ名畧し又叔子夜郎、花凡とてり
毘沙門の猿とてりちの杖衣とてり

●仁丹、高人、左近、天人、婦女

●四の指、雀、口や、詩、履、ハハ地

●馬、草履、兎茅、冬人、酒、花

●本、相皮、月、軟鶴、五兩

●おとまりの思ひ出しし月後のまゝもさるるを
とてり月立り四の指の目 およびの思ひ出しし月後のまゝもさるるを
とてり 此の五の思ひ出しし月後のまゝもさるるを
とてり
●此の五の思ひ出しし月後のまゝもさるるを
とてり
●此の五の思ひ出しし月後のまゝもさるるを
とてり
●此の五の思ひ出しし月後のまゝもさるるを
とてり
●此の五の思ひ出しし月後のまゝもさるるを
とてり
●此の五の思ひ出しし月後のまゝもさるるを
とてり

●毘沙門 大結唱、如急雨、小結切、如私語

●海陽にあり事天のをしし月、昔を思ふは

●太政大臣師七天下早の附神泉苑より藤を浮

●侍公市川正昌の命、極楽園子なる、三

●の仮にありし例の如く、かゝり合せて五

●の手にありし例、わたり合せて七

●の手にありし例、わたり合せて七

●の手にありし例、わたり合せて七

●の手にありし例、わたり合せて七

●の手にありし例、わたり合せて七

●の手にありし例、わたり合せて七

●の手にありし例、わたり合せて七

●の手にありし例、わたり合せて七

●の手にありし例、わたり合せて七

伐りたりれは足柄おほきし事なりし時秋
に足柄の秘をさしけり一若圃集(とく)

一 よろひや
浅きし糸連珠用脚
とち要脚(とち)

一 樞雪
志のめの雪あり一尺の東細
布をよめい(とち)

五内 雉雪 雁 杜若 夏の海(し)
車松 照井 二村山 花月 川上

松系 橋 三吉地

法言
とちまてまのゆめあつ二村山の雪は
上流のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ
夫 雪のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ
月あつ(とち) 雪のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ

一 よこわ
合し目

古
とちまてまのゆめあつ二村山の雪は

一 嬪^{コメ}
よめあつ(とち) 雪のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ
とちまてま(とち)

万
松系(とち) 雪のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ

一 よめあつ
よめあつ(とち) 雪のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ

一 蓬
蒿(とち) 雪のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ

華門の意(とち) 雪のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ
蓬(とち) 雪のふいれゆめ(とち) 雪のふいれゆめ

○ 橋の雪 吉也 北江 猿長 櫻井 花
梅 秋 橋系
月夜 伴小 松系 雪のふいれゆめ

の細くうづりつた糸をひきつるやうに
又かきつるやうに糸のうづりつた糸を
ひきつるやうに糸のうづりつた糸を
ひきつるやうに糸のうづりつた糸を
ひきつるやうに糸のうづりつた糸を
ひきつるやうに糸のうづりつた糸を

● 糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに

● 糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに
糸のうづりつた糸をひきつるやうに

一蓬の洞
蓬をとりしや蓬の洞と云ふ
蓬をとりしや蓬の洞と云ふ

よし 栲の山に於て

栲の山に於て 栲の山に於て 栲の山に於て

一蓬の過

蓬葉とつゝの花葉は津南

● 君の蓬の葉は多しと云ふは 出雲の蓬の葉は多し

夫亦一たびみれば 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

○石死葉、馬糸

返る

一四町

長女と女と糸糸を極厚の子に好

めてつゝら世に好む世を好むと云ふは 山吹の

花の葉は多しと云ふは 出雲の蓬の葉は多し

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

と云ふは 出雲の蓬の葉は多しと云ふは 師光

てこの垣より舟柱つゝ雪をどうあそびん
よりいよせしるきのこの朝露もよよ
葉のさつれいたるう折断るしやまゝも
去ぬ吉山木ものこつてやひらりと枝
延るこのあひまの権を断つてのさつ
てけちくくたつらうとて断つてつゝ
とつてつゝ復る

● 枝のの中をうくのほふの枝をほめて

● 今もまきつゝのひらきの枝をほめて

● 葉のこの内をうくの枝をほめて

● 凡そ花をうくの枝をほめて

● 花を争ふ、反作、筆をうく一柱、

都の時、松、杉、柏、萩、

山吹、升花、岩井、雪、墨、水、泉、

石梅、廊、只、反、

一物定む やま 肌定む 同

● 時雨、雪も、枝、花、お、と、海、

● 中田、鳥、雁、度、虫、折、

陰、二、三、元、五、元、早、松、う、松、

晴、う、う、旅、衣、あ、う、う、

草木上、松、茶、梅、

○ 雪の上をうくの枝をほめて

● 花のこの内をうくの枝をほめて

一宵 扱、同、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

よのこの雪のひらとあつてあつてあつてあつて

雪のひらとあつてあつてあつてあつて

● 雪、月、月、月、月、月、月、月、月、月、月、

雪、月、月、月、月、月、月、月、月、月、

○ 雪の上をうくの枝をほめて
● 花のこの内をうくの枝をほめて
● 凡そ花をうくの枝をほめて
● 葉のこの内をうくの枝をほめて
● 今もまきつゝのひらきの枝をほめて
● 雪の上をうくの枝をほめて
● 花のこの内をうくの枝をほめて
● 凡そ花をうくの枝をほめて
● 葉のこの内をうくの枝をほめて
● 今もまきつゝのひらきの枝をほめて

○ 多目録

田耕 劍戲 遊士 谷 芥 橋
 狸 婦女 鷹 室 言 砂 橋 皇
 草 船 言 天 系 言 津 神 同 香 便
 鞠 毬 戰 絡 架 矣 昏 竜 園 宮
 竜 門 雲 鸚 左 右 立 田 辰 種
 棚 七夕 穀 棚 聖 舟 照 達 戸
 滝 尾 尾 垂 乳 根 車 高 鳩 堂 塔
 頼 匠 左 右 志 左 好 手 後 玉
 魂 多 然 玉 子 分 玉 川 玉 輝
 玉 子 玉 子 玉 子 玉 子 玉 子
 玉 虫 魂 奈 嶽 竹 步 子 茸
 崎 藝 游 薪 薫 氏 旅
 禪 葉 水

大

●いんげん 軒換六帖、知家

六月や思ふ情まの物してとて、鯛はよし、
神功皇后三韓征伐の時、あらう、
鯛の、一両のあまうとて、
砕く、とて、厚よひ、とて、
とて、とて、とて、とて、
とて、とて、とて、とて、

●坂浦、日登浦、味方、酒、長年、千原、
青森、浦、紀海、吉澤子、鳴海、水は、
松島、久松、河津浦、

●長年、酒、味方、酒、長年、千原、
青森、浦、紀海、吉澤子、鳴海、水は、
松島、久松、河津浦、

●長年、酒、味方、酒、長年、千原、
青森、浦、紀海、吉澤子、鳴海、水は、
松島、久松、河津浦、

一 戯 くらねとあつとれさこのあ

●雅、研、杉、石、衣、
はの國のまの、とて、
はの國のまの、とて、

一 遊士 川尻士とて、
とれと、あそびを、
とれと、あそびを、

●色好、好ん、心、違、安、忘、二、
まのあり、化か、あやめ、せ、
楊、と、あ、

●内、屋、さ、う、
あ、ま、の、
あ、ま、の、

一 谷 谿、溪、洞、
あ、ま、の、
あ、ま、の、

●中、夜、
あ、ま、の、
あ、ま、の、

鳩トビ名橋谷より橋所の傍に居るが此國草木

●山、川、檜、紫鴉、在木鴉、岩唐木、

泉、山芋、松、杉、栗、梅、花屋

苔路、草、涼、素門、樵夫、古、

埋木、青つら、言雁山、清滝川、

松石道、笛、葎、埋木、西の丘、

山吹、松の吉木、ろくろの道、深草、

号、朝日山、安寂山、山彦、菟、柘、

岩、恒、木れ、すうろ、山の山、外山、

茅、北吹丸、麻、柘、砂巻山、外山、

松屋、山人、外田、

夫、把持カサネの末の谷、朝日山、山の白雲、常

谷、谷の峰、山、まうらう、くわ、くわ、くわ、

草、草、草、草、草、草、草、草、

谷、谷、谷、谷、谷、谷、谷、谷、

谷、谷、谷、谷、谷、谷、谷、谷、

●谷の谷、喜傷、又、あつの園のふれ、

谷石、谷底の菟、ろくろ谷、恒石の谷

毛く谷、谷の細道、光豆谷、

谷の埋木、谷流丸、毛丸谷、

谷の麻、谷つら、外山の谷、

毛丸、毛丸、毛丸、毛丸、毛丸、

一太刀

日本武、和文抄、しん、しん、と、あり

神代記、接刀、刀原、刀原、

截断の多成、野、河、河、河、河、

際、河、河、河、河、河、河、河、

二、河、河、河、河、河、河、河、河、

一、河、河、河、河、河、河、河、河、

金作、河、河、河、河、河、河、河、河、

と、河、河、河、河、河、河、河、河、

●太刀、河、河、河、河、河、河、河、河、

●小狐のたより九条家の主と小島ぬの
ちの平家のあしすくね伊せぬ

●近侍、君守、武士、曲玉、殖槻、
雇凡、伊せぬ、ここの侯、松の

●岩松、小次郎、大夫、とねの冥、
并橋、るの却、殖す、保、旅人、

お三いらひて女う吉事し二人の男生田川
子とを授けを授けも華うし保をいし子
旅人うぬのまうの男とも争ひ一人の霊
旅をた力を借し戦ひのちうこをこ女は

●花田う帯るく作らほ式徳の安原内は
ノ一しほ式徳と徳の一扱取中するの
か子ほせした口ぬるるやわうし
てぬこ子帯るくしよこひるあまうて
おんまうししゆとあし帯るくし
のうとあし徳田や、そのこあしと帯るく
とねてううぬめとくうううううううう
帯の中は徳とあしとあしとあしとあし
中しつとあしとあしとあしとあしとあし

●君さうしと徳とあしとあしとあしとあし
夫、若しううとあしとあしとあしとあし
、若しううとあしとあしとあしとあし
こい思ひあしとあしとあしとあし
鳥人の言はらうとあしとあしとあしとあし
あのおしとあしとあしとあしとあし

●一狸
一狸の目母は太かてうけいさう良の都と徳とあしとあし
あしとあしとあしとあしとあしとあし
あしとあしとあしとあしとあしとあし

●野、系、山、茅村、林、雨、吉つ、
養、狐、古、後、つ、

●狸の目母は太かてうけいさう良の都と徳とあしとあし
あしとあしとあしとあしとあしとあし
あしとあしとあしとあしとあしとあし

●雨、系、山、茅村、林、雨、吉つ、
養、狐、古、後、つ、
八千虎抄、小狸、とあしとあしとあしとあしとあし

水まうにあつた魚は「吳申」の魚とあり
甲のふいと墨斗の子をさねのふとさく

一婦人 沖代北のむねとあり又女は
まじ白代北のま弱女人とあり

蓋屋男のむねと稱謂したやうにふいのみあり
百あつたをやめるとあり「已」も通す例

○百友、間、八重橋、辨、揚衣、花、扇、

琴、文、舞、祝、舟、袖袂、媚、

三、五、に、梅、さ、い、あ、ま、早、苗、取、あ、る、

里、の、丘、を、井、階、花、の、と、志、衣、あ、り、

友、

夫 豊前一婦と婦の降る衣子とありとあり 在亦
是れはさの降るててそあめ降る婦人
婦人のあつたの正の物とありとあり
婦人の

一上賢 珍ありとありとあり 田力の
名流「公」氏をたすん

と列ス ○高ちちと列郡山崎とあり

宝持者として ○高殿の後日北、守也

太神宮に及一年計及二年とあり東西

とあり ○高市の伝

○市、殿、弓、池、津、代、

曲の玉、河、く、婦人、酒、

子、金、池、蓮、

夫 津代より高殿はむとありとありとあり

とありとありとありとありとありとあり

とありとありとありとありとありとあり

とありとありとありとありとありとあり

とありとありとありとありとありとあり

とありとありとありとありとありとあり

とありとありとありとありとありとあり

一高砂 山のあなをてつ 尾馬子、伴
のあなをてつ 山馬子、伴

六条左大臣の世にいはば相方初にさうまの國
 へあり給ひしより三神の石より言妙と云ん
 ば毎人のいひさうまにわたりしに
 三神といふ所の昔より原をさくまの野
 和名といふおしよきゆまやと申梅子
 一知の名と云ひしは世のしは梅子
 我のしは言妙の原をたまたま
 ちのえおたき言妙あり二おあより言妙
 能くさうまに梅子
 いふに世を梅子言妙のたは梅子
 まるまの序に言妙ははのたは梅子の序に
 差申しよ

一言殿 梅子あり

一言殿
 梅子あり
 梅子あり
 梅子あり

一草

草のつらとあり竹葉の如し
 四葉のつらとありさうま

殿、宿、五月、甚衣、草、梅
 近秋、松風、簪よ、梅、苗、梅
 山江、舟月、木

白
 當愁と書梅花表、草冷枯生菴葉中、
 湖山以雁凡江以草、即能未往月明中、
 床止卷収善竹草、匣中用出白綿衣、

一船

和名抄に言せ舟とあり三雲流
 高帆舟ト云く高帆の舟舟
 の秋よりと云く言船は言船の舟舟

〇鹿、秀、山、川、尻、堤、立田、越
 大井川、紅葉、佐保川、樟木、梅
 桂、六田川、柳、定、氷

ふたし八字抄いふ

西書く三書川原の後の浦にわが時を待つもの
石ころをまわると思ふ又さくさくするしと兵のつれなき

一 戦

古事記にさくしよありとありあ
多しとあのみ友加しよて合戦
とも撃神とてり

○碁、武士、古塚、馳撰のそと、旅寝、
已上こいさうのてさうあまのこ

一 絡架

お名抄にさくしよありとあり天工
開物に絡架ともいふ今集解
と線柱四事三多に線柱とてさうあり木と
三股より一麻を巻物しとてり大津宮
或は金網多し利二基とあり一原とてさあ
たりりさうさうとありとさうとてさうとて
絡架のなほさあありとありとありとあり
このふしあ福さうとてさうあり

一 黄昏

絶れし見かたきさくしよありとあり
さうさうありとありとありとあり
白文集、紫友花下所共白の句、よれり
さう、いさうれま、夕日の異名とてさあり
○旅、香代樹、坂、涼、月待、人待、
友、蘭、夕なほ

子
始りてさあありのさありとありとありとあり
さありとありとありとありとありとありとあり
さありとありとありとありとありとありとあり
さありとありとありとありとありとありとあり

一 競

つとと開すのさありとありとありとあり
多しとありとありとありとありとありとあり
関入とてり

○海、卦、吉姫、洲、市、西、心神、
信流、大、佳、竿、馬、虎

夫等とありとありとありとありとありとあり
これとありとありとありとありとありとあり
○言花集、墜子冠の母某とて橋とて地とあり

りたゆちりて姫て言証をせしりしありて
言証の類三の舞をり思ふ時い遂なるか多し
左、希の思と逆舞とてふ

夫そささし日新のなつゆの事いふまじく人をえつて行能
いふ衣路よりつる中平口袖ゆる手あやほろり
催下の流の口より水をちりし夫と衣を截まじりし

△借屏扱船月竜お院堂也

大造屋去遊諸同 龍作人未言大造

逆筆未抽鳴鳳爰 豎根只點財治文

屏堂屋舞日言見 欽謂竜屏や不殘

車如尻水馬如龍 虎嘯生月竜吟更款

一 竜宮 竜の却と何るも

○ 井筒のこし

一 竜門

其のりのとあつこみ所の中ふに
すまゝ魚とも善く舞り所の舞

らんとすまゝのゆつゆさるゆつとさる
る所さるゆつゆして川の魚い大中とさる上丁

と舞りとのいふ列竜のとも龍去催り地是竜門
越水登ると波お作らるる

作り
いふにたれまをて休ふりて人の思ふいふは河門兼哉

一 記共

夫 朝方ゆて却のりし海に雲の片をさるは里 衆煙
夫 正々や却のりて流はるさるのさる又烟景也

一 鷗

おま物、ふつとまの 田鷗と云
劉長ゆる流と田屋稲花中ともと

○ 古砂地 霜秋、雁、閑、琴、猿、仙

同、住吉、淺田、松葉、入江、洲、同

百景、池、吹飯浦、磯崎、半渡

美浦、芦へ、汐居、川辺、杉、洲、同

写繪、白洲、助、いさ山、九、原

衣尾山、岩根、ふ島、西井、離

龜波、荒田、梅田、以予、淡、女

藻刈舟、く、代浦、足柄、松根、扇

小松、志賀、香、翁、將衣、よ、女、
大、竜

方、
夫、
其後

一、たごし

年、
正、

一、立田娘

世、
夫、

夫、

万、
山、
●、
●、
●、
夫、

夫、

一、種

い、
種、

夫、
夫、
夫、
夫、

一、棚

日本、
岡、

又、
こ、

夫、

一、たごし

目、
夫、
夫、

一 棚瓦小舟 一原のくさくさ 小舟

● 板衣のくさくさ 小舟 棚瓦小舟のくさくさ 節をとり

せうろ 葛さく人く吹りくさくさ

くさくさ 小舟のくさくさ 小舟のくさくさ

● 吉野川、苗、淡路、又、入江、尾、

具 美く柳の中舟のくさくさ 小舟のくさくさ

具 吉野川、淡路、又、入江、尾、

一 鹽

わさ抄、くさくさ、くさくさ、中は信縁

手院のくさくさ 柳、手院、小舟院、耳たのくさくさ

● 春立朝、老、七夕、

老をわさくさくさ 朝のくさくさ 小舟のくさくさ

くさくさ 小舟のくさくさ 小舟のくさくさ

一 達磨

あつまつしよあつ 南天竺の人く

● 達磨、推古天皇、又、我邦、又、

一 此は吉野川のくさくさ 小舟院のくさくさ

くさくさ 小舟院のくさくさ 小舟院のくさくさ

くさくさ 小舟院のくさくさ 小舟院のくさくさ

一 滝尾尾

● 佛、古、借、尾、くさくさ

山、常灯、念珠、はせ、

お佛、

一 垂乳根

一原のくさくさ 小舟院のくさくさ

● 垂乳、花雨、雀、燕、杖、蓮、竹、松、竹、

情、吉野、神、其、浦、舟、又、

九重の塔の欽明天皇十五年乙未正月百餘川の
のほろろとんと同くして

● 併、佐筆池、西迎、佐海、峰、馬下、
日氣、近山寺、香、と、香、香、雁、
傳法、

○ 元慶元年乙未の塔の上より、
塔の上のろう光り等、
△ 雁塔凡我吉、
宗教信末藏塔誦傳

一 頼

特祐るしこれいのかとよあり
又田の更よりむら辞よや蓋子

○ 中立、信女の子、占、勢の手、世事、
反、神、佛、は思、七社、子ありす、
おの師、杖、信杖、母の追凡、と、

雨令、歳令、時令、人、本信、と、芳、只人、

夫は...
と、
本も、田面、と、と、法、由、同、

一 匠

匠匠匠とあり九匠人の匠匠
より、

万と、
夫、
匠匠匠とあり九匠人の匠匠

一、たくぬすま 帛、襦、袴、袷、袴、巾、土、泥
白袴もあつた、これ、袴布の衾、殊、白、き、あ
る、ま、と、そ、う、こ、も、た、れ、川、土、泥、木、の、皮、を、木、綿、と
す、ま、し、こ、う、う、これ、袴、袷、も、真、の、袴、袷、と、し
古、事、記、の、か、こ、く、す、ぬ、ま、や、く、ま、と、よ、め、る、を、
め、也

一、玉

珠、い、ぬ、と、よ、め、り、ゆ、め、り、あ、ま、を
珠、と、い、ふ、こ、も、あ、ま、と、よ、め、り、ゆ、め、り、あ、ま、を
解、の、自、然、の、物、を、事、と、造、作、の、物、を、事、と、
兼、名、死、珠、淋、淋、汗、張、陰、院、談、い、れ、美、玉、の、名、こ
●玉、の、ま、ま、預、け、水、乃、物、と、津、代、い、ふ
●玉、の、ま、ま、預、け、水、乃、物、と、津、代、い、ふ
の、ち、う、り、う、り、う、り、う、り、う、り、う、り、う、り、
い、の、い、の、い、の、い、の、い、の、い、の、い、の、い、の、
不、の、味、あ、ま、の、里、と、い、う、う、り、あ、ま、の、使、あ
使、い、ま、や、行、ま、あ、り、味、い、れ、た、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
よ、め、り、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、

短、い、ぬ、す、ま、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
と、い、ふ、禁、度、い、ぬ、す、ま、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
神、代、記、玉、藏、と、ま、り、賢、木、と、い、ふ、玉、申、の、陰、陽、
の、名、一、百、一、百、一、百、一、百、一、百、一、百、一、百、一、百、
よ、め、り、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、

- 蓬、葛、栲、栲、尾、吸、庭、い、たり、
- 床、甚、い、ぬ、す、ま、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
- 立、田、あ、ま、い、ぬ、す、ま、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
- 車、双、伯、康、女、言、原、舟、浮、世、出、
- 名、の、り、と、諸、涼、衣、裏、益、か、け、し、
- 飯、貝、葛、蒲、管、

い、ぬ、す、ま、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
夫、七、曲、の、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
昔、度、の、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
う、り、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、
長、い、ぬ、す、ま、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、使、あ、ま、の、

侍しとぬよかきり入あねのたきまをわつら
りれい念の白ひとてし横台よりきりりれい
ちのいし考ふいんをとりりりりりりり

天 あまとてし言ひしものもあつらふものたきりし
良常山无石以玉を 彭聳没无薪以釜炊飯

あまとてし言ひしものもあつらふものたきりし
良常山无石以玉を 彭聳没无薪以釜炊飯
あまとてし言ひしものもあつらふものたきりし
良常山无石以玉を 彭聳没无薪以釜炊飯

一魂

魂とてぬとよあつらふものたきりし

○夏、早人、相怪、沈名、庵、あつらふ人

いそやとてぬとよあつらふものたきりし
早人、相怪、沈名、庵、あつらふ人
いそやとてぬとよあつらふものたきりし
早人、相怪、沈名、庵、あつらふ人

この身やとてぬとよあつらふものたきりし
早人、相怪、沈名、庵、あつらふ人
いそやとてぬとよあつらふものたきりし
早人、相怪、沈名、庵、あつらふ人

一玉の法

あまをたきりし念のたきりし

○舊の考、深、反、思、柳

あまをたきりし念のたきりし
舊の考、深、反、思、柳
あまをたきりし念のたきりし
舊の考、深、反、思、柳

一玉の法 内とてぬとよあつらふものたきりし

紅梅の
名を内蔵の司は海か、あまを七月十五日
あまの年の終成よりりまゝとて道入た

一山獄

山をいふはよあり神代は降
とも多きともありたを濁りよとあまの
そのはりののりるりよほを神宮の迎り
朝熊がふりよと雲一七幸とけと神一降て
唱よ神獄るるとすよあり

●花、雁、江、花、巨、皇、朝、山、山下、
月、比、元、光、喜、の、雪、汗、使、生、ま、
穴、師、山、花、系、白、系、朝、光、朝、日、
替り舟

●^山とて西よいまをいふは皇代は神と烟之象
朝の三伊夏之獄、歌り音立のあまの世、里安後
●雇八獄、然山獄、三上、ら、歌、ら、穴、師、
木、俣、の、ち、さ、の、け、伊、吹、く、山、の、
食、の、内、^山元、の、山、の、大、く、り、の、獄

一竹

いけしよあり竹一旬あり
長言の意しとていひ月と

竹の竹の群芳譜、竹の竹とて●是竹
和名抄、竹とて漢語抄、是竹とあり昔吳
困ありまねつとて是竹也、江古才、仁、神、殿
系北方いまの竹とて箱の竹の竹とて竹
の竹報政の設しとて●二月門松、竹の竹、
是竹の竹と

●時、雨、林、竹、竹、在、神、香、号、蚊、
偶、牛、朝、鳥、夕、色、洋、梅、葛、庵、
浮、栗、足、柄、箱、根、基、石、夏、園、軒、
所、恒、長、橋、友、七、吸、圓、風、懸、衣、
虎、尾、矛、反、門、笛、野、あ、歌、
袋、川、糸、紅、老、鳥、秀、雪、号、
燭、の、系、架、岩、の、燭、の、夜、登、
安、差、窓、箱、要

夫の良ぬた先立原をまの山の麓と傳へんは案
いふは伊敷の所をきりぬ只山川のなまをさる

一薪

いさくとよあり焼木
○庭薪といふことあり政事、庭
よ薪をつむありとそ左の衛士つむこと

● 灰入、山陰、馬飼く、午の昔、市、織、
山里、折花、蕨、雪、花の忌、棧、
捲稿、蕨虫、護符、菜摘、水皮、谷、
菓拾つ、峯、岩、

● 法華經を以てしつる薪を草摺及はては行基
採草及水於薪、殺水
夫、いふに、伊敷のころとて、つむる人の焼、法

一薰

いれりのとよあり焼物
いれりのとよあり香木、水、水と
焼物ありとて、つむる人の焼

● セタ、エ、侍人、羽衣、霞衣、比叟、
百せと等の衣、雲の衣、袖口、おこし、
裳袋、夏衣、后、内巻、雲林、
佛、亡際之、煙、梅元丸、蓮、
落葉、葉、恒ぬ樹、五花、宅、
識列、菜、

○ 自い言をいれ物とて、おれ恒根の梅、つむる
自い言、
焼物とて、衣、自い言、七、つむる、つむる、
つむる、つむる、つむる、つむる、

一氏

いさくとよあり四民の、つむる、
農をすう人の、甲人の、甲人の、
階、階、よ、又田部、の、
● 困人、を、つむる、
つむる、後、天、つむる、
● 天、益、人、中、

味
 夫
 何とや松の吉木

一外面

背津面
 山陽
 万葉
 一花
 正面
 与背

○斬
 田
 柗
 雪
 杜

後
 山
 外
 五

一平部安

昔
 今
 野

一
 二

一標

馬
 雪
 標

〇物怪、方遼、私語、あつと、
 帳内、おききす人、こころ、あつと、
 毎火、あつと、写馬、あつと、あつと、
 〇あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、

一 園花韓神系

二月上巳日但二月
三月三日

中巳日を用ひし 〇園神と韓神の大年
 神の子

〇 都目録

津 追継 以下 築牆 松明 鐔
 茅花 椿 魚 惡阻 兵 壺
 壺碑 局 去産 提 釣 鷗 霖
 云孫 つし衣 奴 塚 仕 使
 司 司右 著 借 徒 魚 菰 氣 渡
 筒井 堤 つし つし 都 ところ
 九折 網 氷 柱 支 願 筑 波 筑 業
 井 舎 去 筆 机 鞆 筑 業
 妻 他 妻 瓜 木 砥 石 杖 衆
 概 月 築 山 露 深 雀 鷄 止
 厨子 處 翫 智 暗 次 鞆 子

一壺

漢代純一の壺と云ふ圖の名
私名抄に其と云ふ本
謂壺尾ヲ謂其と云ふ
玉壺の純一也

● 壺中、及舎、相壺、架、構、を、し、て、一、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、

壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、

一壺碑

陸奥文官城、神取元年、
大野朝臣、東人、足、を、り、て、元、平、
は、あ、ま、り、年、依、送、す、其、の、石、を、り、て、一、壺、と、す、

壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、

去京二十五里 去雄美二百七里
去常陸四千里 去下野二百五里
去群鞆四千里

壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、

一局

壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、

一土産

壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、
壺、一、之、の、字、を、官、庫、の、通、を、壺、と、す、

一筑紫

粟田名丸名園寺子打し

○具宗氏の説は筑紫の名筑紫の北海石壁を築くは筑紫を防るることなり

子と、文興、名勝、信安、油溪、

白川、松浦、由良、比佐坂山、左近

橋、宇佐、親善、牛、馬子、

古、三浦、神、比良、山、沖、吉、旅

杜、天川、深川、とれり又

神社坊、たごるね、綿、舟、泊

そよの烟、雪、りまの杜、伊勢

生、松、系、扇、扇、迫、門

○筑紫の築きよるの地を愛州と云ふ筑紫

と云ふ筑紫の七月を筑紫と云ふ筑紫の筑紫

の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

勅使を遣はさるるありあり筑紫の使てあり

別して深川の筑紫の名れり筑紫の

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

○筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

夫、筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

○筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

筑紫の筑紫の筑紫の筑紫の筑紫

て多原公多も坊りよとてさうさうとて

一 瓜木

瓜二の内 瓜梅 瓜とてをこし
木木と句 萩 煎柴こつこ

おしと瓜木とい瓜木をさす 白雲文集 大
田新小田薫見し所記も煮下る瓜木焼

● 笈、櫻、湯茶、丸る原、柘、笛、時、

重安子、市、年者、桂、時雨、

雪、山里、遠山人、三月、去、松

滝、菴、夕月よ、外島、焼女、

色く、衣、焼、笑つ、花雪少の

芋丸を、丈夫、並廻云、子つ、い

志安牛、雪山

瓜木とて瓜木とい之を里まれば松三月
夫、瓜つとて松を拾てまれば瓜の葉とてさす
瓜少のまのりて瓜、れ瓜木東の瓜

一 磔

一層のうい小こころ 車懸り
飛磔とていあり ● 沖原も飛

磔をさすのふくう 書信因答を返りしるや
夫、飛のうたれ磔とて磔の沖原

一 柘

雑の木 苦楊梅とてありし
岩、小原三のてい表の柘花

柘の少くともあり
柘あるはさし知女子柘の少くともあり

一 杖

つえとよあり 衝居の多あり
二字の杖の用をいひてあり

古事記、所杖を投棄してる杖と衝居
后神と名くともあり ● 懸田、杖持あり ● 禮
五十又孝六十紳七十又并八十又朝杖
杖とてあり ● 老人杖、杖、杖とて用

新年参り同く十なり
早参り
正月の初日
正月の初日の参り

一 菜山

山を打つ山と云字句居如
打つ提まつくつらり合二
ついで急ぎたし

○庭、石池、四丁、花、松、梅、芭水、涼

一 罪

罪 天馬宮はらくまのせぬ
罪 罪のわざとすまじき
大いなる罪を犯す
罪 罪のわざとすまじき
罪 罪のわざとすまじき

○左遷、舟板、神神、入法

八雲沖の春と云ふ
罪も人せしむる
罪も人せしむる

一 雀鷄

雀鷄 雀鷄の行 罪も人せしむる
雀鷄 雀鷄の行 罪も人せしむる

一 辻

何事も只一辻
左路の句

○辻、占、文加

一 厨子

厨子 厨子二階三階四階
厨子 厨子二階三階四階

一 朔日

一日し日朝昨日今日
月立の月の立初め
月立の月の立初め

○毎月朔日を祝ふ通例之内行事
朔日は赤昆布焼と云ふ
○朔日はあつ白の福あまの参り

一 晦日 ツクヨリ 昨日今日明日と日なりし中
月ありて 雲居地 月隠る
のありとなく 彩雲を流す 七つとこころと
よあり 星流 月をさあつて 二つとこころ
あり

一 終 ハジメ 終るに 句は 終るに あり
終るに 別個と あり 終るに あり

○ 字 船 旅 山 舟 行 行 行 行
悟 入 日

いんじんをいんじんといふは 終るに あり
相違ひなきや 終るに あり 終るに あり
終るに あり 終るに あり 終るに あり

一 鞭草 ツクシ 薜ふあり あり あり あり

○ 守山 朝 系 小 系 枝 下 系 栗 梅 地
谷 野 系 薜 恒 系 破 山 白 系 地 薜 恒

後 河 海 枝 板 戸 霜 鳥 中 月 雨

葉 傍 あり 終るに あり 終るに あり
終るに あり 終るに あり 終るに あり
終るに あり 終るに あり 終るに あり

ね

後防は一方よりこれ水辺に防板
の交水用之防防して水邊を知らせし
後防陣の居此水辺に防板を知らせし
をたするるに防板を知らせし
防板にさするるの防板を知らせし
あせしに防板を知らせし
多量少人の防板を知らせし
しするに防板を知らせし

防板の居此水辺に防板を知らせし
防板の居此水辺に防板を知らせし
防板の居此水辺に防板を知らせし

一 鍋

鍋の居此水辺に防板を知らせし
鍋の居此水辺に防板を知らせし
鍋の居此水辺に防板を知らせし

鍋の居此水辺に防板を知らせし
鍋の居此水辺に防板を知らせし
鍋の居此水辺に防板を知らせし

一 あえ子

あえ子の居此水辺に防板を知らせし
あえ子の居此水辺に防板を知らせし
あえ子の居此水辺に防板を知らせし

● 西多川のいづかの國也人 ヒキクルメテシ
● 駒ろてのい並てい

一鳴神

字、句 雷もいつちらハシ
雷の多き所す多し
一万字の動神もあつ河圖帝通死し雷ハ天
地の勢とこころ 体合いつちと因

一流

一、つらそ一此体用、外ハ流
● 名流 月日流 月日流 星 月日流 水 月日流
● 流の浪 波 流の浪 波 流の浪 波
● 流の反 る 流の反 る 流の反 る
● 流の志 文王ノ流 流の志 文王ノ流 流の志 文王ノ流
● 流の車 流と 流の車 流と 流の車 流と
● 流の歴 歴と 流の歴 歴と 流の歴 歴と
● 流の旒 旒と 流の旒 旒と 流の旒 旒と

● 月、落花、納涼、松下、柳陰、谷、舟、野舟、虫、蕉、際、山、花、盆、床、板、茅、痛、立、川、地、柵

● 流 流 流 流 流 流
● 流 流 流 流 流 流
● 流 流 流 流 流 流
● 流 流 流 流 流 流

一尻木

此物此体用、外ハ尻人の一子
● 尻木 尻木 尻木 尻木 尻木 尻木
● 尻木 尻木 尻木 尻木 尻木 尻木

● 媒 媒 媒 媒 媒 媒
● 媒 媒 媒 媒 媒 媒

一媒

人備云、申も中も
● 媒 媒 媒 媒 媒 媒
● 媒 媒 媒 媒 媒 媒

よのつ中^ちのちのありし^し彩^{いろ}を^をみ^みた^たる^るあ^あら^らう^う
とあ^あの^のり^りの^の同^{どう}人^{にん}を^を嫌^{きら}ひ^ひ以^もて^て言^{こと}語^ごを^を反^{へん}復^{ふく}す^す中

一 中神

名神^な長神^{なが}を^を既^{すで}に^に夜^よに^に
初^{はつ}名^な抄^{しやう}天^{てん}一^{いつ}神^{しん}金^{きん}匱^{けい}座^ざ
天^{てん}一^{いつ}立^た中央^{ちゆうおう}為^な十二^{じふに}將^{しやう}定^{ぢやう}吉^{きち}凶^{きゆう}ト^ト申^{まを}陰^{いん}陽^{やう}去^こ
天^{てん}一^{いつ}處^ちり^り方^{はう}角^{かく}百^{ひやく}事^じ犯^{はん}向^{かう}之^の大^{だい}凶^{きゆう}ト^ト申^{まを}又^{また}男^{おとこ}
ノ^の中^{ちゆう}を^をと^とる^る神^{しん}ト^ト申^{まを}之^の中^{ちゆう}申^{まを}少^{せう}
ク^くト^ト申^{まを}之^の中^{ちゆう}申^{まを}少^{せう}
羅^らト^ト日^{にち}ト^ト九^くテ^テ四^し子^し四^し日^{にち}ト^ト申^{まを}四^し方^{はう}ト^ト申^{まを}
ク^くト^ト申^{まを}天^{てん}ト^ト申^{まを}萬^{まん}分^{ぶん}矣^やト^ト申^{まを}
戌^{しゆ}申^{まを}ト^ト申^{まを}凡^{ひん}十^{じふ}ト^ト申^{まを}天^{てん}ト^ト申^{まを}ト^ト申^{まを}
之^の通^{つう}止^し大^{だい}全^{ぜん}ト^ト申^{まを}遠^{えん}方^{はう}每^{まい}日^{にち}各^{かく}有^あ避^ひ忌^ぎ但^だ
矣^やト^ト日^{にち}列^{れつ}戌^{しゆ}申^{まを}日^{にち}一^{いつ}申^{まを}在^あ天^{てん}无^む避^ひ忌^ぎ志^し
不^ふ是^ぜト^ト百^{ひやく}鬼^き理^りト^ト天^{てん}女^{にょ}化^け男^{おとこ}ト^ト申^{まを}

一 長床

此^こ夜^よ外^が此^こ夜^よ如^{ごと}親^{しん}天^{てん}台^{たい}土^ど言^{こと}
ニ^にテ^テ切^きハ^ハの^の時^{とき}用^{もち}ト^ト申^{まを}長^{なが}四^しの^の
夫^お是^こ時^{とき}の^の油^{あぶら}を^をつ^つめ^め長^{なが}床^{とこ}の^の時^{とき}の^のと^と申^{まを}此^こ夜^よの^の後^{のち}

一 長キ別

遠^{えん}旅^{りょ}唐^{たう}土^どト^ト申^{まを}つ^つト^ト申^{まを}
左^さ廷^{てい}他^たの^の國^{こく}セ^セト^ト申^{まを}
命^{めい}齊^{せい}災^{さい}多^たの^の申^{まを}
是^こも^も長^{なが}キ^き別^{べつ}也^{なり}ト^ト申^{まを}昔^{むかし}も^もつ^つま^まの^のち^ちの^のち^ちの^のち^ち
ト^ト申^{まを}今^{いま}も^もつ^つま^まの^のち^ちの^のち^ちの^のち^ち
ト^ト申^{まを}人^{ひと}母^{はは}の^のあ^あり^り別^{べつ}を^をつ^つめ^め長^{なが}床^{とこ}の^の時^{とき}の^のと^と申^{まを}

一 存命

述^{じゆつ}此^こ數^{すう}老^{らう}童^{どう}を^を表^{あらわ}し^し生^{なま}れ^れ
る^るの^のい^いの^の句^く生^{なま}れ^れの^のい^いの^の句^く死^しの^のい^いの^の句^く矣^や
命^{めい}と^と表^{あらわ}す^す生^{なま}れ^れの^のい^いの^の句^く長^{なが}別^{べつ}の^のい^いの^の句^く
長^{なが}生^{なま}れ^れも^もあ^あり^り長^{なが}く^く世^よを^をあ^あら^らわ^わし^し一^{いつ}万^{まん}の^の
院^{いん}經^{きやう}妻^{さい}吹^ふれ^れと^とよ^よめ^めの^の商^{しやう}の^の長^{なが}く^くと^と申^{まを}
逢^あ忌^ぎ姫^{ひめ}仁^に三^{さん}々^々遁^{とん}世^せ摘^{てき}菓^か
植^ち花^か柱^{ちゆう}桃^{とう}蔓^{まん}竹^{ちやく}の^のし^しは^は忍^{にん}
依^いの^の君^{きみ}代^{しろ}言^{こと}位^い仙^{せん}人^{にん}浮^う木^{ぼく}逢^あ忌^ぎ
逢^あ忌^ぎ略^{りやく}摘^{てき}菓^か

追か

一七十七

心敷くあるとよありあはらひ
七十年とよありあはらひ

七十年の都に居たりし世のあはれ
七十年の都に居たりし世のあはれ

七十年の都に居たりし世のあはれ
七十年の都に居たりし世のあはれ

七十年の都に居たりし世のあはれ
七十年の都に居たりし世のあはれ

七十年の都に居たりし世のあはれ
七十年の都に居たりし世のあはれ

一 歎

嘆きよあり 重長は 嗟水将字
洗るけしよあり 長身のみ

長大身とつらや 歎息いれいれとつら
初より投木よせとつら

苦みあぬあけいれとつら
嘆き水採嘆めいれ

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

一 情

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

あはれとつらとつらとつらとつら
投木に投木いれあり 投木に投木いれあり

よも情実の多しほせおのふまはけとくろ
は國をいひしあはけとくろとくろ

○徒然草の目男女情のさし逢ふさし逢ふの
つらあらしきういふは世の化を物とくろ長
らよと犯ゆし遠くを井ととひかり高らうやと
よ昔ととくろと色ぬとといひめとくろ

○君子は、旅のちのち、勤る、逢折、
父、とまるたれぬ申、文の返し、
砦、花、杜り、月、雪、三、石、茶、

一、あつしきちも旅うりたりとくろ人の情の
ほこしき人の情うりくよとくろぬをぬを
あ、ふらつたつたといひつと杜れり月雪の時
あ、こつとくろとくろとくろとくろのちのち

一、あづめの情

あつしきちも旅うりたりとくろ人の情の
ほこしき人の情うりくよとくろぬをぬを

よも情実の多しほせおのふまはけとくろ
は國をいひしあはけとくろとくろ

○一筆のそし、旅者言、遊女、さし難申
夜のちや、一物あつり、花の影、

一、遊人

五節

○夜衣、墨の袖、昔言ふ、遁世、屋元
勢をあらま、写し傳、焼書、反、
思字橋、活ぬ息、さふり君か付、
ためていひて、ほまのた、ほこしき、
刑見事、以多ぬのうり、橋平とくろ

○遊人の形も、あつしきちも旅うりたりとくろ人の情の
ほこしき人の情うりくよとくろぬをぬを

河原屋引の御成道とて...
● 釣一氣 獲集物...
所くして...

一夏虫

焼火、灯、志、細谷川、八尾津

夫... 此... 已上...
これ...
これ...
これ...

一あづ神

天へ神ノイといハリ
か... 且...
か... 且...
か... 且...

良目録

雷鳥、蕪、埴、廊、揮、下

式目録

室、室、八、行、膝、六、十、三、月、祝、禊
胸、棟、鱧、魚、空、村、無、礼、急、雨
紫、菰、馬、驛、馬、錢、孫、後、引
婿、龍、麥、梅、虫、定、格、埋、木

ら

咽結産靈神、わい玉梅雨

良

一雷鳥

越の白山のみ希人のくま
形堆唯雉子のこくし文采を

大明一気志、松鷄ことごとく

そののちも信よまろのい葉にほらあちのけ

一蘭

らましほあこもらんのきんぎょ

△兼有芳蘭有秀

鼻出松桂枝、狐隠蘭葉下

一埒

らんせのたの綿はぬけよ、かすまはらひの雨定家
らちい馬場、ほとまをさごとく

一廊

らりりとこの廊は字あひうし
せりつとをよりのひさのちよ
ふりあを廊下、ほしんごうん、
●ほろ、胡蝶の

巻、廊せりつあめ、のらもらあちことごとく

●友松、栞、燕、吟

●小院廻廊、春、寂、浴、鬼、屋、宇、院、也

一うに

九耳よ、いんまも、あしと、い、た、う、る、ま、き、耳
ふ、同、と、世、の、後、を、ま、よ、の、と、形、

一欄干

らん久とい、百、頁、あ、の、路、甲、う、の、
栞、の、ま、の、こ、も、わ、い、一、月、と、よ、あ、う

●橋、内、涼、月、雪、花、杜、若、雁、池

鴛、居、酒、琴、笛、舞、滝、反、接

空、祿、扇、管、巻、水、答、藻、釣

栞、竹

武

一室

あろとい、あ、い、こ、こ、ろ、の、あ、い、日、本、池
房、と、よ、あ、り、屋、を、い、せ、あ、う、こ、こ

む、こ、う、●室、の、観、音、寺、と、表、麻、塔、と、表、こ

萬葉方、都子と傳へませむなり

一 都子

あくとよりの初名物なり延
喜式法酒更進の菓こじは酒
都子しとくうととも蒲を都白都村より長厚
黄せり麥ひくそむさるを傳うそのゆよ
赤く熟しるをほけさげくうあぶい法製と
やむあくとよりの果今あけざとりの苗
ふこ・都子更進の爲に田圃耕すとも

一 鞭

倭名抄、あちとよあつ矛打の
後傳、初幸記、つ之鞭
まとして人を打又馬と驅よう革は従下好中
まとしてやよし笠策の字まとしてう 聖
具也、鞭とよりの言方、正平皮、裝束而
ハハ、思ふもの、由器也、まをあつ
のあちといひ、あつ、筆もまとしてあつ
とくう九言人の鞭、前馬あり末葉の附こ
れを既大い金人きや懐中、投一む

● 策とあちとくうとよあつ 鞭あしサことし
竹るれ作也と策といひ革とて編て作也と
鞭しすとくう ● 尉僚、良馬有策則遠
及可致とくう

牛とよふらうしはひの馬子あちあせは
あちとよまきあちとよまきあちとよまきあち

一 昔

神代池、嘗とあつとよあつ古
法於建、久代もあつとよひ
一のあち、向字とよはひのまもあつとよあつ
あちとよとよあつとよあつとよあつ
● 昔のあち、まきとよまきとよまきとよまきとよ
まきとよまきとよまきとよまきとよまきとよ
まきとよまきとよまきとよまきとよまきとよ

母の語の好の好をひり昔人の思ふやつ
母言山の治のまきとよまきとよまきとよまきとよ
● 昔人の三言まきとよまきとよまきとよまきとよ
まきとよまきとよまきとよまきとよまきとよまきとよ
まきとよまきとよまきとよまきとよまきとよまきとよ

萬のこころをなすは心の如くは

一 襦袢

あきとよりの衣類は又兼て
郊外に纏綿の衣のきぬは
あきとよりの衣類は又兼て

あきとよりの衣類は又兼て
あきとよりの衣類は又兼て

一 睦言

あつとあつととも言ふは
の言ふよこころ

あつとあつととも言ふは
あつとあつととも言ふは

一 六ノ緒

あつとあつととも言ふは
あつとあつととも言ふは

一 上の道

あつとあつととも言ふは
あつとあつととも言ふは

あつとあつととも言ふは
あつとあつととも言ふは

一 六の花

あつとあつととも言ふは
あつとあつととも言ふは

一 胸

あつとあつととも言ふは
あつとあつととも言ふは

一鳥羽玉

あいなむとあめらねいふ
のほろろ降す。●こいあ
い鳥ねあのみと鳥の音あまやといひ
おねあの名もあまやといひ。●早死に
万葉集あまねあまやといひ。古今集あまや
いふとあまやといひ。あまやといひ。とあまや
あいなむとあめらねいふの音あまや

あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや
あいなむとあめらねいふの音あまや

一梅雨

梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨

●立花 梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨
梅雨(同)梅雨

葛城 小南の丘 あり山中

夫のふりかへり山の推る中あはるる一床ありは
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ
みみ海
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ

一 優曇華

佛世にあり 蓮の如き
八巻の煙

つとむのふりかへり山の推る中あはるる一床ありは
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ
みみ海
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ

一 氏

いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ
みみ海
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ

○宗方氏、唐言氏、成の末、友氏、
成の序、能成、成の橋、成の氏、成の神

○氏社、八十八氏

○生れ子、老童、中書序、立死
眼言人、家言、才

一 友氏

○世日、大弟、三登、堂建、
后、舞と定

一 氏人

三氏実跡、大神堂の氏人又法社
祝部氏市とて

○神治、序社、巨連川、宗、葵

○成を新ん、信、生作、内子、司治

○元少く、宗方、家言、宗近、神

○あり、立死、三子山

いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ
みみ海
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ
いふいふと報あ子割むはこ山の雲も抱れぬへぬ

一 字名、花園

○宗花、信、信、信、信

○麻、雁、山の松、月、中、華、菴

里、中

一 三つがく

遊仙窟 志也よあり 虚象
多るまゝなり 又あゝく 多初なり 志も定ち
るくまゝなり 志も定ちるくまゝなり ○ 初冬抄子
馬前きあり 方大池 池川の尻に池すす
あつとよの木のあふん 尻よりまゝに池
に結んで久くともまゝなり 草もまゝ
の伝来と伝居と又如きとまゝに 遍さあり
あまのりくまゝなり 志も定ちるくまゝなり
まゝにまゝなり 志も定ちるくまゝなり
これよりまゝなり

一 馬前

志川に池あり 志川の尻に池すす
これよりまゝなり 志も定ちるくまゝなり
あまのりくまゝなり 志も定ちるくまゝなり
まゝにまゝなり 志も定ちるくまゝなり
これよりまゝなり

一 轉作

侍人 琴を拈 毎火 ぬるす 萩
鳩居 縮妻 秋の清 埋火 涼
夏

あまのりくまゝなり 志も定ちるくまゝなり
まゝにまゝなり 志も定ちるくまゝなり
これよりまゝなり

一 梁

宮 与 栲 燕 雀 詠 謡 味
過牛

樓窓梁空雀自喧 割向別添魯人
盧公雅雅歌 弁声清哀動梁上塵 受
字者莫能及 三云よきいおや 梁塵と云
▲ 蛛網淡 况幅畫梁

竹々、竹旅人、栴日蓮、老々命、
 何ん中、多、お怪、欲子生
 親手、八十の雨、玉洋の左、門、お立、
 氷、橋、埋火灰、つけの少、
 賢と求、

万々付てワラ衣はにききとて思ふも、
 下長、あほまさんし、あほこの、
 夫、あほのあけとよんはまの、
 夫、あほまさんし、あほこの、
 夫、あほまさんし、あほこの、

一浦

うとふ、あ面、射せ、
 内、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

一白木

花林、

 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

一亭屋

ほむ物、

 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 夫、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

暮、白の、海、木、

柳林、宿走、由岐路、つう、田畔、
稻を、耳院人、山川、給、ちう、
遠方の人、暑日、ふぬい、小車、
里、及、山、山路、田、
残、芝生、婦人、双車、桐子、
庭、思、麻車、鷲、鷲

夫、老の所、牧の子、
「^三老の所、牧の子、
「^二術を、人、
夫、
「^一年、
「^〇知、
「^〇玉、
「^〇於、
「^〇歩、

一良
夫、

一潮
「^〇海、
「^〇長、
「^〇零、
「^〇雪、

一しろ丸
「^〇世、
「^〇妻、

一しろ丸
「^〇世、
「^〇妻、

一 鷓坂祭

神中務及明神又吉
七月廿三日 祇日 祥宣の

を申時よりぬの女よそのまの申の申、雄つら男の
穀をやりさすよそのまの申はと神の板あて女あう
をすさねいりりおのあやいりやい女をいり
神とい外坂の板いり

夫のまの板の柱とすれせ思ふまの板をぬい後
まとい市の板のいり

一 外花くら

万原よあり外花廣
多し外月のころ

雨つらつらと廣く西土より迎梅雨よ

一 くらがれ

楚辞ノ帖々やめくはせり
長良とにせり

古 秋夜のころをれは是のいり下まの海のいり

一 閏月

いり月閏の閏蘇のあられ
早花の閏月もあう

○ いり月ととも西土の閏年ととも
○ 天ノ運行三百五十五度四分度の一あり一年三百六
日とす月大月あり過つらとを幸豊と
○ 小月と日を朔虚とす此過不及を合七十二
三年後三十一つ余のあやとす三年一閏
とす五閏再国九年に九七閏十及
余る一是を一章とす

一 閏正月

全 正月ととも三月のあられ
○ いり月ととも三月のあられ
○ いり月ととも三月のあられ
○ いり月ととも三月のあられ
○ いり月ととも三月のあられ

一 閏二月

○ いり月ととも三月のあられ
○ いり月ととも三月のあられ
○ いり月ととも三月のあられ
○ いり月ととも三月のあられ
○ いり月ととも三月のあられ

お 天の川女月あめこまをたてて天宮にたすけん 集

○ 閏八月

お 長月の舟より先きよき秋の二秋と渡りてれ 陰伝
よるく仲の夜に三夜と三夜と三夜と三夜と
あまのさき月二秋と三夜と三夜と三夜と 秋夜

○ 閏九月

お 長月二夜と三夜と三夜と三夜と三夜と
お 長月二夜と三夜と三夜と三夜と三夜と
お 長月二夜と三夜と三夜と三夜と三夜と
お 長月二夜と三夜と三夜と三夜と三夜と

○ 閏十月

お 沖野を時雨の月をまかしくまかしく下座す 唐柿
お 沖野を二つと三つと三つと三つと三つと 唐柿

○ 閏十一月

○ 閏十二月

お 海を三冬と三冬と三冬と三冬と三冬と
お 海を三冬と三冬と三冬と三冬と三冬と
お 海を三冬と三冬と三冬と三冬と三冬と
お 海を三冬と三冬と三冬と三冬と三冬と

へかす之禱

梅ノ一ツリ

香散 尾見草 二月中旬梅より 噴徳院ノ作トシ
山園漸久にほろろ草色ぞ香き誰見
とみきん

とては村の人のりまや、町に逢ふも任信を承
、とされぬ失ふはさしき、町の勝り程をすけ、健

一、荷前使

太神宮式、調祈禱し、中
祝詞、とらふとよれとのさ
比、成や

○雪中、羊の号、思昔、後世、継舟位、

一、軒

倭名抄に、旅をよめり、又字、字軒、
字をよめり、退の、名、軒、礼能、屋、屋、異、こ
と、と、の、さ、い、も、不、答、端、の、名、又、号、の、詞、
の、地、い、う、し、と、う、云、塵、集、主、と、あ、ま、し、と、い、ふ
と、云、又、と、れ、る、と、い、ふ、と、退、羽、撃、に、名、後、す、
合、集、集、の、さ、月、く、ま、の、号、の、針、袋、と、よ、れ、い
る、さ、退、さ、号、を、い、ふ、と、う、秘、考、何、の、は、こ、風
聲、代、左、の、馬、の、名、を、い、ふ、と、う、ま、す、と、う、い、延、在、年
より、路、し、内、考、と、合、と、後、つ、こ、る、と、い、ふ、と、
の、さ、ね、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、

- 梅、松、竹、花、楊、柳、忍、草、秋、名、
- 鳥、号、笑、外、山、雅、要、時、雨、
- 雨、雪、香、雀、菟、山、さ、板、
- 月、因、和、ろ、立、花、苔、松、古、葉、
- ほ、菟、標、意、め、

夫、口、名、の、好、め、下、板、敷、と、て、了、地、長、子、林、の、あ、り、字、意、
の、や、り、板、と、言、ふ、も、高、の、中、ろ、う、好、も、よ、く、立、死、
赤、山、信、や、好、の、昔、の、互、持、て、存、の、と、よ、板、を、成、く、は、蓋、
後、
あ、ま、し、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、

旅目錄

老・綾・直・惠・花・く・尾・花・種オホシテ
鬼・鬼の志オホシテ・子・魔・大・丹・狼・荒オホシテ・子
赤・花・つ・ほ・し・大・平・野・糸・棘・大・巨
才・男・驚・表・落・累・零・落・柳
尾・上・真・山・親・長・沖・荻・燦
翁・苑・楓・折・敷・子・几・押・照・帯
澤・浮・思・子・思・子・侍・面・白・想・像
思・や・ど・ち・思・ふ・事・念・珠
追カ
大・宮・人・花・り・ぬ・の・志・晚・稻・行・追・風
花・の・ら・ぶ・花・の・ら・ぶ・女

旅之郊

一老
万葉集倭名抄におわとよあり字
と老の始とするより西土より
いつれに經よ五十以為老と云く。老すといと
いつれ老過りこがふ及く。元補集にお申る業
とよありの老いもをいつれ及申る老と云ふ
○煙火・雪・滝・音・松・鶴・思・子・雀
念佛・隱・象・遁・世・柳・花・路・る・馬
重・荷・昔・く・賦・灯・月・花・滝
院・山・杜・下・子・梅・白・山・友・柳・院
霞・光・松・原

○此も老の親のさや昔はては老はれぬ事を命にほ
日老に老者たのむれしよあり
この老つていふ言は老の足踏する灯の中
その
たつていふ言は老の足踏する灯の中
その
年をいふ言は老の足踏する灯の中

おひしむるもせせしめぬの困憚りてあて取
りし路よてさそくをまといひてあつとく
ゑんどうとて人の言の時事と云ふは事なりとて

●鬼喰い合物をまつところあるといふ只あつと
●おあつと木ほ神宮の四子正月の松のまじ
又戸外より木をまら十二月の夜を接くとい
ちるをいふ鬼障支の夜障なり

●鬼火燐とよま火といふ
●鬼の百の清浄なあり南之白澤王鬼を
斬の画あつとろりやし禁秘抄に由利の良方
に三面三日赤色く鬼取を画くなり

●鬼瓦の朝風障一度情物志、竜生九子
虫吻の好吞及残月之哉朝風好嶮殿角之
敷ト云々

●尾登殿、百段、大官人、威のくれ
長也、雪の山、けいねる回位の付雪山の
鬼とてあつと法り、聖事文とほり、りとも
君の意、生駒山、大忍圃、安達寺
玉塚、萍宿、隠りの

●おひしむるもせせしめぬの困憚りてあて取
りし路よてさそくをまといひてあつとく
ゑんどうとて人の言の時事と云ふは事なりとて

一 鬼の志と子

紫苑の私名に物忘れせぬ
正にやあり新くとあつ
人いふてさそくをまといひてあつとく

●女花、梅子、萩、高虫、庭、野、
外面、野分、荒、林、宮、塚、志、子

●おひしむるもせせしめぬの困憚りてあて取
りし路よてさそくをまといひてあつとく
ゑんどうとて人の言の時事と云ふは事なりとて

一 籠

藤鏡とておあつとよあつ月色石明
をこり●おあつとけ藤屋事の多
神宮のまにあつと少派とてあつと

○舞 友つぼをとりて先忍母の友つぼを
まのし勢く終りし

○野分の多れいなき大なる葉上をゆつては遠忘
れし者も多し

○鞠の場 多の言の猶も付く相持せしこ
物ゆきしは

○若狭も付く人八旬の年とす世の古風如
き人ゆきなきのなきありしは

○文、玉華、ゆきあふ、君も、御立柳
車は

○叶あつた世の古風も御立柳の社蓋

一物をつれ

一物をつれ 舞臺とあり
楚辭とあり

○稚き文使、他人と信、目く安、碎の言地
と妻舟、串、呼子と

お尾垂れは流丸の流はと妻舟のあやふくあり
遠年のいさしき妻舟は妻舟のいさしき

一 大系野祭

二月上外日十月中子日
年三亥

この神社の后宮のまゝとてたてゐる屯子の上の
庭にゆきし越中さ知りしとまされ大
系が行啓をすすのゆき文佳天皇に
あま年二月より始て行ひしは近傍の使
は日とて同。○行啓とい謂世宮宮后の
押おしと名目抄す。○大系の神のあまの
沖(四花とて同)

○近傍、翁、舟車、木枯、莖

いせの○大系はあまのいさしき沖のいさしきあま 葉華
は葉 用しんれはあまのいさしきあまのいさしき 田房
はこい 大系中宮のいさしき沖のいさしき 葉
夫、いさしきあまのいさしき君はあまのいさしき

一 棘

荆棘と属する棘もやろとよ
物とてあまのいさしき

夫、あつた所の新の川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
万、お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

一長

お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

○里、川、舟、馬、九重、宇治川、淀川、
七夕、駅、船

△お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

一沖

お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

○鷹、習、漢火、小女、中川、鳩、
取、浦、海上、雁、浮、海、言、語、
舟、雁、松、海、老、く、舟、雞、皮、
石、廣、瀬、千、石、老、女、以、女、
花、暗、思、美、浦

お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの
お尋ねの川のほとり、お尋ねの業、お尋ねの

山崎のあまのいづるまに申し返すはぢぢぢ

一 思子

水映の果冬とてつり物し
あやまきふにるもいふ冬

● 竹林良哉の思子あまのいづるまに申し返すはぢぢぢ
とてつり物し又通身その花よりあまをいふとてつり

● 神の香 於ち中 行実 左の辺

松也 尾花 松丸 松柳 萱

山崎也 中白也 系指 吉地 入野

香の契

万冬の内屋のつとよの思子とてつり物し
右の松の尾花の文の思子の香もあまのいづるまに申し返すはぢぢぢ
石松も子文の思子定あまのいづるまの思子の香もあまのいづるまに申し返すはぢぢぢ
よ松柳もつとよの思子とてつり物し
● 目もいづるまの思子の松丸の尾花の思子の香もあまのいづるまに申し返すはぢぢぢ
こいづるまの思子の松柳もつとよの思子とてつり物し
あまのいづるまの思子の松丸の尾花の思子の香もあまのいづるまに申し返すはぢぢぢ

一 思子

あまのいづるまに申し返すはぢぢぢ

● 竹林良哉の思子あまのいづるまに申し返すはぢぢぢ

これ陶器のつとよの思子とてつり物し
のりもあまのいづるまの思子とてつり物し

● 行実の契 松丸の思子とてつり物し

● 松とあまのいづるまの思子の松丸の思子の香もあまのいづるまに申し返すはぢぢぢ
こいづるまの思子の松丸の思子の香もあまのいづるまに申し返すはぢぢぢ
とてつり物し

一 休

文鑑、氣を面すよふり
新氣をうけし津、西氣あり

づい思氣をうけし西氣は是し休休とあつた
とてつり物し ● 与極、況三名を分てり

● 西氣の思子あまのいづるまに申し返すはぢぢぢ
こいづるまの思子の松丸の思子の香もあまのいづるまに申し返すはぢぢぢ

秋意さう薄く冬意さう濃く
こぼれぬ秋の夕暮

●月、夏、花、流、玉、馬、夏、夏、と、怪、
名、馬、馬、馬、馬、馬

●^玉 昔のよりの幸近はいつのころか
人のくさす侍のついでに
老を物と解き朝露の
侍のついでに
侍のついでに

●面白 可憐又風流をいふ
よ

●古決本述、日神天の
流し面
中

●還幸と
多
多
多

●想像 文
何

と

●思ふと地 下
早

●京、月、花、雪、将、酒、暮、地、
合、梅、の、秋、 春、の、梅

●^上 昔のよりの幸近はいつのころか
人のくさす侍のついでに
老を物と解き朝露の
侍のついでに
侍のついでに

一 田舎のこゝろ

早稲と稲の秋の歌とてその
早稲と稲とて秋の内の五の節立外方せし
田舎のこゝろは田舎のこゝろとては田舎

一 念珠

念珠の念は念ふの念
念ふの念は念ふの念
念ふの念は念ふの念

念ふの念は念ふの念
念ふの念は念ふの念
念ふの念は念ふの念

○ 追か

一 大名人

公卿とて大名人とて
大名人とて公卿とて

舟岡、彦、葉の盃、虫撰、外秋、老明、
若菜、子日、舞、相模、鞠、菖、
佛名、楊子、人

舟岡、彦、葉の盃、虫撰、外秋、老明、
若菜、子日、舞、相模、鞠、菖、
佛名、楊子、人

一 たりぬの思

たりぬの思、たりぬの思、
たりぬの思、たりぬの思、

花山、洗城、与道、折桐、
花山、洗城、与道、折桐、

花山、洗城、与道、折桐、
花山、洗城、与道、折桐、

久目ろく

畔 桑 圃 栝 栝 栝 木 梔 子 樟
車 栗 胡 桃 家 莊 苦 膳 ぐ ぐ
号 夜 紅 当 雲 之 乃 冲 鞞
菴 位 海 月 競 馬 水 雞 傀 傀
齧 然 字 字 川 栉 舞 雲 曼
雲 洋 柳 味 葛 菜 醫 菜 玉 菜 痛
返 加 飲 世 音 功 仕 池 百 汝 限 櫛

久

一 畔

とろくの内轉の言成りし松栲
膝を削ぐ新入舎院の壺をも
よあり保こしくくろ木づる葉をるると
ひあり壺の生のみあり伊勢の松をる
鳥
この鳥の肉の争ひ古の古の肉もあつて
周文王の虜囚に遊畔と云ふ計詔を地外より来
畔ともつとこそ伊勢の壺をる

一 上菜

蚕のくろくはちうれい蚕桑と云
つるじくをこし面をこしこくひこ
うり上菜は白菜を先くく女菜と云と根
とくくろくをこし白菜の名は同葉と

一 朽木

海苔、ふも或の樺をよめり
朽木、北江列を早死に梅を
よめり、故、南、口木のあや

● 丸、馬絡、三ヶ、木山隠

千、まて、ま、信の朽木、古里、秋のたを、陸子、陳、宋雅
花、し、口、ぬ、あ、い、ぬ、人、朽、木、を、し、い、ぬ、れ、と、一、区
を、存、れ、い、ま、は、ま、ま、て、い、て、朽、木、の、朽、て、は、れ、耕、で

一 梔

山梔子とも山梔子とも
反花とも

● 木板山、忍山、盤手園、女花、菘、衣、川水

古、山、の、ま、ま、衣、ゆ、や、れ、と、ま、ま、入、早、り、い、や
早、の、の、の、早、ゆ、ま、ま、あ、の、の、下、降、ま、ま、ん
早、の、の、の、早、ゆ、ま、ま、あ、の、の、下、降、ま、ま、ん
早、の、の、の、早、ゆ、ま、ま、あ、の、の、下、降、ま、ま、ん

一 粟

くろとい色の粟よりうづらや
九月九日、粟をくろ丁の照根、
事、い、く、う、花、の、ま、ま、う、る、と、い、反、に、朽、り、久、落、
粟、ゆ、い、只、粟、ま、ま、あ、れ、

● 山里、繁戸、猿、仕、靴、古、雨、大、風、
大、里、里、火、木、陰、庭、園、辺、木、紫、
大、花、三、人、

失、山、の、ま、ま、は、ま、粟、の、う、と、庭、ま、ま、う、大、里、の、里、
い、の、ま、ま、い、ま、ま、ま、ま、う、栗、の、ま、ま、ま、ま、い、ぬ、れ、と、一、区
い、の、ま、ま、い、ま、ま、ま、ま、う、栗、の、ま、ま、ま、ま、い、ぬ、れ、と、一、区
い、の、ま、ま、い、ま、ま、ま、ま、う、栗、の、ま、ま、ま、ま、い、ぬ、れ、と、一、区

一 檨

雑、口、系、反、七、ら、い、杖、樺、木

〇、ま、ま、い、は、信、の、山、の、樺、木、ま、ま、い、ぬ、れ、と、一、区
〇、ま、ま、い、は、信、の、山、の、樺、木、ま、ま、い、ぬ、れ、と、一、区
〇、ま、ま、い、は、信、の、山、の、樺、木、ま、ま、い、ぬ、れ、と、一、区

● 依保川、年、言、飯、馬山、里人、志、也、
大川の、仲つ川、駒と、席、

一車

と凡車の唐廂檜杵も木の檜杵を以て少く
尾眉半葺細代木の細代を以て少く
● 海人屋敷、唐車飾車糸毛車笠笠笠
曲伝等之反一條大路之唐廂車仙院或
親王或親柄被百々檜杵毛車以上公令
乗之と云々古之位は公令位下と云
人子よりしての事、法曹重要抄也
● 大八といふ車、大八葉の小葉といふ事よ
り名しられし。● 車をわらしといふ事、薛侯
池の左車、七十の歳をいふ事、○ 文車
と云々、車といはれる代、古事記に
● 車といはれる事、西土の事、七
月二日の雨を洗車雨といふ事

● 色好、管るとは、伊豆物洗、天々の
男好の伊のい、と云、これもおく、この車と
女車といふ事、と云、おく、おく、おく、
いら、管と云、て女車、入、り、り、り、
● 父の、中、馬、松、崎、多、大、中、地、
松の、三、建、文、麻、屋、竹、の、
行幸、夏、出入、物、見、車、奈、所、持、
花、の、所、門、仕、門、出、門、唐、車、
野、告、禁、人、尖、る、存、子、日、葵、
侯、人の、管、の、末、牛、候、松、徒、市、
炭、雪、綾、男、氷、木、と、の、
息、妻、戸、口、綿、奴、田、川、早、敷、
宇、后、白、洲、太、山、谷、尾、山、峯、
小、野、川、小、山、玉、笑、羊、
馬、の、糸、麻、菰、席、門、

の、人、の、い、り、も、い、り、若、く、車、と、い、く、道、車、と、い、く、
夫、お、く、と、い、ふ、車、の、い、り、す、と、い、ふ、事、の、あ、り、と、い、ふ、
る、事、

女也いもうしちかしていふはあしはかしくはる
たれいふもふかしくして

古 **養**の別をいふのめつたといふ **養**の別をいふ

とあるはこれいふ男人の團子(丸)の事といふは
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
といふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
といふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
といふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

言 **養**の別をいふのめつたといふ **養**の別をいふ

いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

一位

後日申述に **元** **聖** **世** **一** **位** **子**
四分あり 一位より三位までは
正位のも四位より五位は上下あり

● **聖** **月** **と** **ぬ** **嘘** **言** **仕** **親** **法** **師**
后 **考** **山** **野** **人** **才** **星** **日** **あ** **と**

播磨 **忠** **孝** **止** **系** **い** **ひ** **聖** **中**

歟 **家** **の** **丸** **衣** **の** **衣** **を** **や** **く** **申** **り**

申 **り** **左** **近** **年** **子** **野** **人** **始** **末** **元**

いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事
いふ事(事)の事といふ事(事)の事といふ事(事)の事

一 鯨鯢

鯨の長とくらの一し
いれざるそとを鯨の一と

○あゝ海、犀、信、津、亀、越、海、中、
八咫、く、君、難、波、言、大、舟、玉、庫、
夕、立、瀧、

△鯨吞院、津、水、犀、舖、點、燈、瓶、
△鯨、吞、院、津、水、犀、舖、點、燈、瓶、
△鯨、吞、院、津、水、犀、舖、點、燈、瓶、

一 雲

あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、
あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、
あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、

○

あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、
あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、
あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、

○

あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、
あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、
あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、

○

あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、
あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、
あゝ、雲、の、波、その、道、その、た、し、その、提、

色の旗子 中々くち

一 曇

只一洗んると一室二しむ句
厚く重くと重く記す變とく
とくしよき事と早とちう 物を見れば壇を
とくしとくしとくしとくし

潮 嵩以 雲 驚 光 月 とくし

洗衣干つた花 霏 人 花月 未済

花月 人の花 月のみこ

洗のちう 翻夫の次

雪とて雪とて雪とて雪とて雪とて雪とて

雪とて雪とて雪とて雪とて雪とて雪とて

雪とて雪とて雪とて雪とて雪とて雪とて

一 雲の降

夜や夕奇峯

江

夕立 水々 花辰山 入日 乳生 男 山 山 山

皇烟 山 橋 東 市 夏 雨 代 鶴 言 山

一 蜘蛛

くもとよめい 喜母のほせり 藤
陸機の詩 捕蜘蛛 一名 長脚 刺

川河月人 謂之喜母 ともくし

の別名 小蜘蛛の名 俗に 小蜘蛛 小蜘蛛

捕い小蜘蛛 ともくし 支る 巢の 虫 蜘蛛 ともくし

蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし

蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし

蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし

女 花 菖 荷 ああ 竹 祝 几 帳

雞 松 詩 鷹 鷹 酒 虫 の 文 足

こく 蜘蛛 梅 名 揚 牛 條 雷

子 祝 伯 梅 変 只 一 芭 蕉 七 文

書 柳 軒 傳 身 蘭 笑 琴

蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし

蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし

蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし 蜘蛛 ともくし

一塘

兼葑

小山田

也目錄

屋 矢 宿 舎 寄 生 八 百 遺 水
 三 月 八 咫 澆 奴 やつ ぐ やつ ぐ
 美 梁 崩 山 山 崎 山 路 山 口
 山 本 山 井 山 重 山 彦 山 娘
 仙 山 守 山 崎 山 伏 山 崎
 山 葛 山 藍 山 橋 山 陵 馬
 山 崎 山 崎 山 崎 大 和 病
 燒 野 藪 や さ し 八 段 瓊 玉
 園 社 社 孫 養 娘 瘦
 休 屋 手

追加 八段瓊玉 八段瓊玉

中のみ多し、あつたの原を多中と云ふ、
其の内より

● 笑、梅、松、竹、池、花、外、面、獨、居、
笑、涼、月、花、菽、兼、海、笑、
人、竹、洋、物、山、三、偏、松、系、蓮、
園、尺、松、尺、稻、子、管、要、柳、
菘、子、号、佐、人、琴、

○ 神々の道も世より荒き、
物も山と云へば、
夫れを山嶽のやと云ふ、
ゆゑに、

一 念

○ 行、月、空、を、虫、と、い、つ、
○ 行、く、と、く、
○ 行、く、と、く、
○ 行、く、と、く、

時、無、怪、の、も、
衣、也、也、
つ、つ、
旅、

一 寄 生

○ 或、く、く、
○ 或、く、く、
○ 或、く、く、
○ 或、く、く、

○ 或、く、く、
○ 或、く、く、
○ 或、く、く、
○ 或、く、く、

一 八 百

○ 或、く、く、
○ 或、く、く、
○ 或、く、く、
○ 或、く、く、

一 遣 水
池、表、庭、他、と、
池、表、庭、他、と、

○ 庭、石、こ、
○ 庭、石、こ、
○ 庭、石、こ、
○ 庭、石、こ、

一 扇つら

憔悴をいふ瘦疲の糸
神代花 穂穂やつをよめる
歳終の名残

●長旅 逢て月日を送る おとよふ
川辺にさあよふ 屋敷より

ちよとちよとさあよふ ちよとちよと

一 美梁

ヤナナ 中ねとよあまの美梁のや果
のこしよめう 木もよせそ美
を西よめしるぬらうとちよとちよと
羊衣の付天徳の友川のたけり 親つこまの
ことと ●梁抄交し 梁事と交し 上り果屯こ
ちよ梁而やれ秋

●若取川 早川 田上川 水巻川
野河川 雨晴 夕立 施 野田川

夫のつらよさぬらうとちよとちよと
早川にたけり 他人のよせまをよめぬ
とよとちよとちよと 事をもよめぬ 川も果す
先後

一 竹胡

ヤナナ 竹胡 沖へいりて ちよとちよと
いひしよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
い美、ゆみて 男やちよとちよと ちよとちよと
ゆとちよと ちよとちよと ちよとちよと
●大木おの女の塚をい中へて 左も男の塚を
わぬの親の是井のよあまを切ていさうてくまぬ
橋をいし ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
て女もいし ちよとちよと

●いづれも 右大おのよまの由馬あし 山へ入 ちよと
大おるれい ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと

一 山

扇つらよめい 止のぬ動をを福
ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
不譲い ちよとちよと ちよとちよと ちよとちよと
るれつとちよと 説死に ちよとちよと ちよとちよと

●樂人 柳人 吉吉 庵 隠れ 内取
入に 炭女 棧 席 雁 号

山言てくれぬを井、花らあふ山車
花下山のまゝの石、花の石馬山
花のまゝの石馬山、却のまゝの石馬山

一山の端 万葉の山の端とて申

花あふくはまの山は花の山とて申す
花あふくはまの山は花の山とて申す

一山路 花、花、馬、鹿、将、号、岩

樵夫、旅り、葎、少く
山田の、花、菜、時

夫、山言てくれぬを井、花らあふ山車
花下山のまゝの石、花の石馬山
花のまゝの石馬山、却のまゝの石馬山

一山口

山言てくれぬを井、花らあふ山車
花下山のまゝの石、花の石馬山
花のまゝの石馬山、却のまゝの石馬山

花あふくはまの山は花の山とて申す
花あふくはまの山は花の山とて申す

一山本 里、世の厚、棧、田、江、川

花、花、馬、鹿、将、号、岩
樵夫、旅り、葎、少く
山田の、花、菜、時

花、花、馬、鹿、将、号、岩
樵夫、旅り、葎、少く
山田の、花、菜、時

花あふくはまの山は花の山とて申す
花あふくはまの山は花の山とて申す

一山弁

花あふくはまの山は花の山とて申す
花あふくはまの山は花の山とて申す

華又花をけて山鹿の二つを世書けん
山鹿の跡の石ころあつて布いふ花も
夫 山鹿の跡の石ころあつて布いふ花も
山鹿の跡の石ころあつて布いふ花も
山鹿の跡の石ころあつて布いふ花も

一仙

高早とく上あつ 佛出仙人とよ
天部の中行と夜とに依て呼空
の所 謂是るねども 平教の道一

薪、杓、炭、炭、拾、木、実、谷、の、片、
葉、の、海、桃、の、海、大、暮、鹿、故、
鳥、門、龍、門、木、炭、と、う、菜、五、死、
紅、雪、

仙のれ油月、葉の葉、打、研、つ、も、木、の、の、
鳥、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
列、仙、傳、の、仙、入、在、食、朝、露、
花、柄、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
この柄をとりしれ、中、仙、入、を、打、つ、と、し、
南、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

一山守

山守のらいてる人、神の屋の橋、お、つ、く、人、鹿、
人、を、ぬ、た、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
夫、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
山、守、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

一山残

山、残、と、上、あ、つ、山、鹿、の、人、と、子、鹿、
薪、谷、実、柄、夕、鳥、花、園、七、李、
麻、衣、林、機、

山、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
山、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
山、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

一山伏

山、伏、と、上、あ、つ、山、鹿、の、人、と、子、鹿、
山、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
山、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、

七の條條一隊の標・法師の題する山伏と
よあり

●薪ころ、吉物、怒の、吉衣、葛帳、吉鳥、
皮衣、擇快、岩釜洞、長厚神、伏草

山伏のくまるといふ者神ありて其標ひつて在れ
るも其標のくまるといふ者神ありて其標ひつて在れ
夫、若くは其標のくまるといふ者神ありて其標ひつて在れ
六、山伏の海はともいふ者神ありて其標ひつて在れ
五、山伏のくまるといふ者神ありて其標ひつて在れ

一山ごち つねより山賊とて山伏の者
は山伏とて山賊とて山伏の者

一山哥 やまごり古く採物の者より
は山伏に法魂系との條と今

取髪木佛法冠象とて一層と里川の山より
ひらき集りてとて山伏といふとて山伏といふと
梁塵抄に神ありて山伏といふとて山伏といふと
後いふとて山伏といふとて山伏といふと

○山歌 山歌といふとて山歌といふと
山歌といふとて山歌といふと

一山藍 自然山といふとて山藍といふと
山の青葉といふとて山藍といふと

藍といふとて山藍といふとて山藍といふと
山藍といふとて山藍といふとて山藍といふと
山藍といふとて山藍といふとて山藍といふと

一山橋 延喜式大青木の條より教相子
ト云く山橋といふとて山橋といふと

山橋といふとて山橋といふとて山橋といふと
山橋といふとて山橋といふとて山橋といふと
山橋といふとて山橋といふとて山橋といふと

○外樞 外樞といふとて外樞といふと
外樞といふとて外樞といふと

神也と語りしは、
 ○大初小未摩をのり、
 ○日本魂原成、
 也、
 ○千載集の序、
 聖和歌と、
 夫、

一病

和名、疾病と申すは、
 上の多し、
 とり、
 ○聖位、
 月夜、
 其、
 羽杖、
 略、

此、
 人、

一焼野

歳、
 昔、
 前、

一敷

至、
 仙、
 不、
 教、
 今、
 此、

○狐、
 我、
 里、

夫君信とよきとよき申されし書きた松と吹は是

一松虫

紡績娘こととら又つひの松凡
の女ははらうをまき名所はとら
まはら高のあつとらう人はあつとらま
るといひはらうとらまはら高のあつとらま
まはら高のあつとらまはら高のあつとらま

- 忍草、甘花、尾花、少世、善後、善庵
- 野古香、菊松、遠東の、古海、少以
- 帽、言月、山室、中萩、立甲、比野
- 善の系、梅山、恒吉、井恒、五梅川
- 無名、竹色、庭傍身、秋の列
- 野中社、比大野、正葛、吉名
- お抱、蓬、お抱、花園、お抱

夫山室の松まきとらまはら高のあつとらま
まはら高のあつとらまはら高のあつとらま
まはら高のあつとらまはら高のあつとらま

一松毛

少々の名しとよ羽色氣色を
おろくく小洋或は四月羊頭
松樹とらまはら高のあつとらま

取大松毛動しはらうとらま
とらまの要さすよらわねははら高のあつとらま

一松火

羊火松とらまはら高のあつとらま

一待

いとらてしあしとらまはら高のあつとらま

- 空炬、ゆるり、夕旅、ゆるり
- 衣抄、初雁、初雪、終り、初雪
- ちう掛の床、出雲出、床の伝、おん世
- 早急の伝、生れ伝、君の伝
- 旅人の伝、花、五弁滝、杜若

月 山橋氏

只世といふゆゑに此の所と云ふは
信のまゝに云ふ事なきは所の事いふ所の信
月より信を云ふ事なきは所の事いふ所の信

一政

まつとよあり奉事の名と云
系政一致もこの。源氏まつ
いふと云ふ。まつとよ人早死和名抄別友
とよあり。郡まゝい王政。

○近世 内業、秋、司陰、聖人、女人、

学、約人、愛のまじり、百歳、百歳、
あまの浦

政事と云ふに、好色、解の礼、凶徒、政人、病、
云々の事、神祕、七夕、亡魂、山田、火口、

夫、吳世のまゝに信の政事と云ふは、信のまゝに、信のまゝに、
信のまゝに、信のまゝに、信のまゝに、信のまゝに、
信のまゝに、信のまゝに、信のまゝに、信のまゝに、
信のまゝに、信のまゝに、信のまゝに、信のまゝに、

一貪

まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、
まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、
まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、
まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、
まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、

○宅雪、集文、学、うらみ、山、
海、文、麻衣、つり、神、印、曲、花、

一睫

目毛、つり、神、印、曲、花、
目毛、つり、神、印、曲、花、
目毛、つり、神、印、曲、花、
目毛、つり、神、印、曲、花、
目毛、つり、神、印、曲、花、

一學子

まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、
まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、
まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、
まつとよの信のまつとよ、まつとよの信のまつとよ、

大以がまじく少くはひよきまぬひもしく
●学文のつぎきんるに世中又るとし把居て
物と合し物学文の長と量りや及身するに
後合るし学文のつげとをんるるりはを
放崎試といひ

○江、雪、景、写傳、詩、歌、漢、位、
賢、佛の道、法、入、室舟、桂朽神、
法の師、維、放、又、寔、

唐、横の学、のつぎきんるに世中又るとし把居て
物と合し物学文の長と量りや及身するに
後合るし学文のつげとをんるるりはを
放崎試といひ

一客人
の多し、俗、婦人の月事と
客と稱るい履をい同客といふ

○鞠、歌、酒、月、雪花、

一儲君
唐、君副以謂之儲、
もい日事此、東宮をよけり

○世、歌、詩、鞠、弓、射、其、
石、杖、外、杖、或の采、子、昇、之、
師、兄、竹、号、

一梳
またよあむ目程の多あり
又纏の多も之より一原集、

久とあるるんとよあむ薦物相巻之宛毛とい元
日事此の多あひま下海ともよえし神武死
に物とま地ともよめり古の梳格をいれし
是し又一多ありし、聖王、帝、物、皮、物、石、物、方
物、木、之、り、又、番、物、あり、●物、之、神、代、元、頭、也
古事記、序、物、方、と、い、●物、上、原、公、物、之、
物、之、原、公、之、事、也、(と、い、ひ、)

○橋、あ、あ、橋、く、橋、凡、殿、上、舟、
野、旅、好、辰、辰、却、忌、昔、不、物、也

一架

多岐とい疑の一反し間塞のやじ
もせ極ともいふ神宮のせも尺楳
せもせ極ともいふ一尺子拒楳ともいふせも
麦ともいふ馬ともいふ拒楳い二人のまこはま
正字のねえ 洗ふたの極目

一 大夫

男多とまのりともいふ共す一尺の
よあり 鬼のまのりともいふ
せりともいふ又健夫ともいふ

楳吹、軍、宝廣、弓矢、将、血木、
酒代、忌、伴のともいふ、鮎河、松尾

麦のともいふ

○まのりともいふ一尺の神宮のまのりともいふ
○まのりともいふ一尺の神宮のまのりともいふ
○まのりともいふ一尺の神宮のまのりともいふ
○まのりともいふ一尺の神宮のまのりともいふ

け
ふ

計目録

歎 賜皇 袈裟 元服 烟 友 花

不目ろく

佛法僧 淵 友 蘭 友 衣 吉 友
故師 深見 宗 二人 二道 船 鮎
袋 兼 苗 羊 裁 手 文
紫 漬 皇 王 藤 倉 吉 倉
補陀 落

計

一歎

ほれの生れも打う、名の歎
世よりしもの字、も原物、句、
傳名物、畜をけい、よ、歎をけい、よ、
り毛田物、毛物のあ、
しとあるい、六月、秋の文、畜仲志、盛物、鳥
眾とく、人、家、よ、六畜の、病、死、す、吳、や
山、真山、思、妻、山畑、谷、あ、田
美村、並、ら、古、菰、要、村、情、將、揚、
賢、肝、西、階、野、炭、

古長
○たせ○い吉一も葉をさす歎の平に吠えんち
少して天子とさす、もの仙華をつらう、
のれ庭すのこれ、終天、こむとある、些、他、を
ひて、天子の、な、れ、
か、と、ま、ま、安、
れ、上、天、一、ま、の、山、を、八、公、山、と、名、所、と、や
り、少、す、の、名、所、の、名、を、歎、の、名、を、并、に、さ、す、ま、ま、淨

火くし
 火の姿はるるをよきものなりてその為ひ
 半湯しふ人なり。火の形は火を焼て木人なりて
 酒めを焼ては客来れ木人なり酒を飲は
 の火は酒のし客来れなりとて

一 脇息 つくえ 脇息をくし小息

火くし
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 のくしをくしてはくしをくしたるなり
 のくしをくしてはくしをくしたるなり

一 袈裟 袈裟は衣の氷雪降す

火くし
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 とく翻せり

一 元服 元服は冠のしるしをくして首服首

火くし
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 傍るなりとて加冠深髪能冠

火くし
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 火くしをくしてはくしをくしたるなり

一 煙

煙の火の煙の義陽なりとてなり
 煙の火の煙の義陽なりとてなり

火くし
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 火くしをくしてはくしをくしたるなり
 火くしをくしてはくしをくしたるなり

- 竹、茅、荻、草、松、萩、雪、雨、水
- 香、梅、川、木、草、香、庵、板、朝、夕、菴

ねん年法皇のあれとるれりよそちを子用ひ
れ作らあや

おのろていさのりて女の花いほも松也いふん
子五子
のこもいぬを言ふ山吹のきよき井はれを
少のそ松もてなと存せたるをいふ野
花のそあのお秋雨ありあく春の月見
漢の蓮の松とあをそ草軍人ふもせし
なすまのいともあてあつたをいよはのり

○位すく 義まろ、坊のそ、牛すの室
位えん人 昔とれぬ 肝のたえ ちん人
多のちを 少れと極 あり肝 昔の友
師ちのそ ありのそ 人少の室
位様一也 あり 後のはん ちのそ松
達る松もあをそ ちのそちのそ
古くやちのそ

一古語 辰如打ら 勺もろ迷所
皇居の流 人の位様 あり

○月 雪、露、雨、池、煙井、あまのり、ち

あまの色、蓮、海芽、美村、萩、荷
松、梅、香、号、うら、燕、鹿、虫
菘、松虫、陰虫、筆、うら、信
虫、あま、昔、志、安、却、難、波、夜、系
以、多、の、烟、池、種、松、色、る、さ、阿、多、の、池

一 浮見字 昔の如く

一二人 人偏、水、云、水
手松、照云、私、し、七、女、折

連、松、親、兄弟、初、登、る、田、其、衣
度、衣、兼、云、松、也、松、旅、の、伴
車、内、舞、あ、あ、う、の、降、の、中、し

天 何んかあもは、神、と、ん、上、に、ん、を、神、先
元、一、七、松、川、を、松、中、達、る、松、と、う、松、が
又、母、の、衣、を、し、ん、つ、と、あ、の、人、子、松、の、あ、と

い、さ、え、ん、ん、松、居

芋の巻

● 泉門水の三つがけの芋は禁山物と云ふに云々
夫れ少くし富後侯が御用 芋は水は禁を置る

一 富士

● 日事記に云く 聖武天皇の
夏越と云く 都氏の 富士北山名

富士取那名と云く 万葉

● 土地のふれ 時由神といふ事 富士山を布衣の衣

と云ふれい世々春雲帝の時 備前といふ云々

● こと 甲州の山あり 名 甲州上吉田村表の山

● 名 山あり 言 四丈三尺三圍 亦一山といふ 額五丈

● 名 世々美若峰と云く 八咫の蓮花と云く ことと云く

● 名 山と云く 八咫と云く 一尺あり

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

● 名 山と云く 八咫と云く 三圍と云く 亦三圍と云く

古目録

子暮 鯉衣 更衣 衣手 衣手
氷郡 琴言 琴言 祝言 相模使
東凡 金小 陵馬 木枯 磨 樹神
水葱 兄 本學 菓 極楽 駒
駒迎 言 壽 苔 苔下 幸夷
九十 心盡 加吹 越路 腰意
菰 泊多 小弓遊

衣衣録

江縁 大子羊 蝦蛭 海老 夷

處目録

菟布 寺 啄木 樵 手習

古

一子

人倫の至り多し 述懐し 子の生
々 述懐し 氷上之とも 依り 述懐
あやこしよ 秋歳の多し して 子孫 近
し みて して 神代祀 身よりの 子身の
字に 東觀漢記 ことごとく 子に 男子の 通稱
と之と 女子内子 婢子の 社あり 我邦あり
女稱し するものも 又 字 娘 子の 内名よ
何子し 稱するに 仁明帝の 皇女 三子と 推
雲と 子 少や ことよ あり あり あり あり
粉と 少の 名あり

○学乃乃 家乃乃 乃 逝事世 宮住 乃乃
出雲文 母の 出法 宅子と 後々 ころも
令侍 乃乃 初旅 定々 元乃乃 雀
瑞 乃乃 挂里 大井中 明石 驛
松 茂 口尻 橋 竹 牛 雀 乃乃
雉子 猿 龍 乃乃 乃乃

よう金とて言へしといふは拾遺にふくむ。金の降大和國金峰山とてふ美言なり。園山

一 小波鳥 木に梅 翠雀のめいり

● 山里 柳の枝 鷗 木原 冬野

山里 柳の枝 鷗 木原 冬野
山里 柳の枝 鷗 木原 冬野
山里 柳の枝 鷗 木原 冬野

一 木枯 木原の冬枯し 尻をかくしとて
字出 凡て木上曰枯とて申 麓とてふしとて
用 初冬の枯葉の音を冬とて申 又秋とて申
この野を冬とて申 判 六帖の冬とて申

● 峰月 長月 長月 長月 長月
品 品 品 品 品
恒 恒 恒 恒 恒

雪華 冬菴 石菴 冬菴 冬菴
鹿 鹿 鹿 鹿 鹿
野路 野路 野路 野路 野路
首領 首領 首領 首領 首領
花山 花山 花山 花山 花山
五葉 五葉 五葉 五葉 五葉
石田 石田 石田 石田 石田
内藤 内藤 内藤 内藤 内藤

夫 夫 夫 夫 夫
夫 夫 夫 夫 夫
夫 夫 夫 夫 夫

一 磨 磨 磨 磨 磨

天宮の神 天宮の神 天宮の神 天宮の神 天宮の神

一九十

九字とこのつとよあまの海の名
八方の中央をさしての成す

又名のあつこい代敷よりまきや・禁中も
ぬきともも楚辞もさう・信天子九門とを
又九天よりすくいとくもやまのさう
一筆より九條色もたれも同・九日とを
ぬきともあまのつとよあま

●忍まふ十毛の敷やあつこい九条の代敷
かき子南のうまのまのたれあつこい
あまの代敷もあつこい九条の代敷
あまの代敷もあつこい九条の代敷
あまの代敷もあつこい九条の代敷

一〇〇

けぬえ 舟 左近 花 内
年号 舟子生 ちり

松浦 唐舟 本万月 五州 逢阪

●あつこい唐舟のあつこい九条の代敷
あつこい唐舟のあつこい九条の代敷
あつこい唐舟のあつこい九条の代敷
あつこい唐舟のあつこい九条の代敷

一〇一

樞美人の口よりさげぬく
おゆかしてさそくす

とらり是知樹の又内へ入ればはあつこい
少とらり東園の樹陰をさそくす
又とらり胡粉をさそくす

●あつこい唐舟のあつこい九条の代敷
あつこい唐舟のあつこい九条の代敷
あつこい唐舟のあつこい九条の代敷

一〇二

旅人 月 遠方人 羨気心 秋立

●旅人 月 遠方人 羨気心 秋立
旅人 月 遠方人 羨気心 秋立
旅人 月 遠方人 羨気心 秋立

●あつこい唐舟のあつこい九条の代敷
あつこい唐舟のあつこい九条の代敷
あつこい唐舟のあつこい九条の代敷

家の子 只ひしめ 世のよきもの
とて 絶えりし 世のよきもの 後継り
いと とう 幼子

●老恋 老人の心 老のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの

●初恋 又年若き人の心を
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの

●遠恋 遠くの人を恋ふ
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの

●近恋 近き人を恋ふ
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの

●旅恋 旅の妹を恋ふ
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの

●旅恋 旅の妹を恋ふ
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの
いと せり 世のよきもの 世のよきもの

く比ふまはるる

●三の雨 晴きて 雨さる ぬれども

青の雨 笑合つ づくし 宮あつと

杜鰲の雪 上る雨 御のまね ともなはる

後の雨 雨さる 鳥の集り けの雪

雨さる 比ねあめ 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨の夕 雪の灯

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

雨さる 雨さる 雨さる 雨さる

一 葎

おま抄へこもしよる 小編の女
よや 荒い出たれいこもしよる

い薦、用れりやう 袴子、蔭席とく
おまこいほめしよる

●舟の帆 生川糸 井手 桂 三話江

近世の舟 松 雪 小江 島 津水

淀 川舟 山々の波 白雲

▲煮まこも 交刈 刈こも 煮まこも

水こも ままも 上りのつこも

五六 年ぬておのまもまはるる 近世の舟 葎
六七 煮まこいほめしよる 煮まこいほめしよる
七八 刈て干庭のりこもあまのちのまを 葎
八九 山嶺のまをのりこもあまのちのまを 葎



